

ロハスなアーティスト in パーク

アーティストたちが中心にレジデンスをびわこ文化公園に持ち、ロハスな暮らしができる空間を提案します。短期・中期・長期的に持続可能な暮らしを目指します。

立命館大学：大谷育夢、富村郁斗、黄月州、清水琴都、倉本紗季



前期

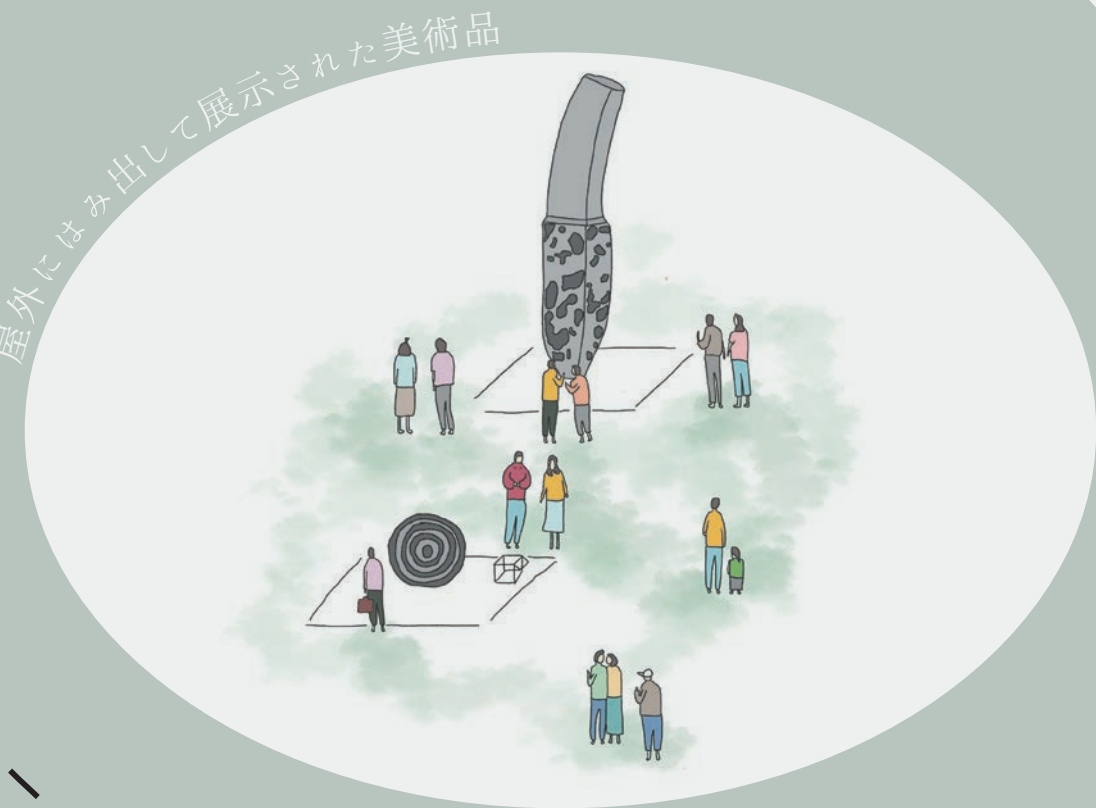
公園内に住居や学習、飲食などのスペースとなるコンテナを配置する。アーティストはそこに住み、制作活動に励み、公園や図書館を利用する人は、そこで時間を過ごすことができる。お互いが見る見られるの関係になり、関心を持ち合い、びわこ文化公園を利用する人の繋がりを強化する。



木陰の下で本を読むスペース



子供たちがのびのびと遊べる公園広場



屋外にはみ出して展示された美術品



中期

公園内にレジデンスを持つ人たちが、シェア畑を利用し自分たちで野菜や果物を育て、ロハスな暮らしを目指す。また、このシェア畑は地域の住民も利用し、公園内の住民と公園付近の住民の交流を図る。



● レジデンス ● シェア畑



交流を図るシェア畑

後期

将来的に、空きストックが問題となる団地にもアーティストが滞在する。さらに、広域で滞在し地域に密着することで BIWAKO ビエンナーレの開催エリアとしても期待できる。

